

“言葉”の影響力
って、大きい!

わたしたちが日常なにげなく使っている言葉には、固定的な性別役割分業意識、価値観やイメージが盛り込まれていることが多い。また、わたしたちのなかに潜在する無自覚な意識も、言葉を介して思考や表現、行動に影響を与えている。気づかぬうちにジェンダー(*)に縛られて、そのことが自分らしく生きることを阻害する一因にもなっている。一方で、言葉は時代とともに変化もする。新しい表現が生まれ、そこから新たな概念や価値観がつくられることで、徐々に社会や慣習も変わってゆく。このように、わたしたちの大切なコミュニケーション手段でもある言葉には、計り知れないくらい大きな影響力がある。性別にかかわらず、誰もが生きやすい社会の実現のために、まずは身近な「言葉」から意識してみよう。

*ジェンダーとは?

社会的・文化的に形成された性別のこと。人間には生まれつきの生物学的性別(セックス/sex)がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」(ジェンダー/gender)という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。

～内閣府男女共同参画局ホームページより～

すてっぷ・情報ライブラリー【おすすめ所蔵本】

『「オバサン」はなぜ嫌われるか』

田中 ひかる/著 集英社 2011年

『ジェンダーで学ぶ言語学』

中村 桃子/編 世界思想社 2010年

『女性の呼び方大研究 ギャルからオバさんまで』

遠藤 織枝/編 三省堂 1992年



すてっぷ・男女共同参画リーフレット Vol.5

[編集] すてっぷ・男女共同参画リーフレット市民編集グループ
(財団法人とよなか男女共同参画推進財団事務局内)

[発行] 2011(平成23)年12月1日

財団法人とよなか男女共同参画推進財団

〒560-0026 豊中市玉井町1-1-1-501

TEL 06-6844-9735 FAX 06-6844-9706

<http://www.toyonaka-step.jp/>